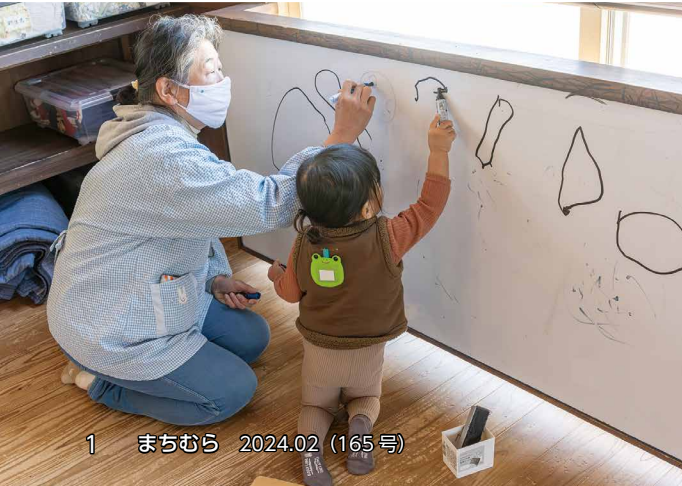




親子も若者も
笑顔になれる
居場所から

埼玉県入間市
特定非営利活動法人
AIKURU







「過ごし方は自由。何をしてもOK、何をしなくてもOK。オスキニドゥツ」

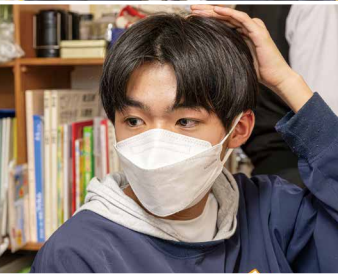
毎週金曜の夕方、埼玉県入間市の中心市街地にあるビルの1階で開かれる、学校でも家でもない中学生以上の若者の居場所「AIKURU FREEBASE（以下、フリーベース）」を訪れた。フリーベースを運営するのは特定非営利活動法人AIKURU（代表理事・宮岡幸江さん）。この場所は、親子が気軽に自由に遊びに来られる常設広場「子育て家庭支援センターあいくる」として同法人が運営しており、毎週金曜は衣替えして、17時から21時まで中学生以上の若者向けの居場所として広場を開放している。

17時近くになると、学校も年齢も様々なルーツの中高生が次々とやってくる。AIKURUのスタッフと挨拶を交わすと、差し入れのお菓子を気兼ねなく頬張る子、床に寝転んでおしゃべりする子、ボードゲームに興じる子、PCで画像編集に没頭する子、バレーで前庭を走り回る子たちなど、それぞれの「楽しい時間」で広場はいっぱいになる。

「料理酒はまだ残ってますか？」料理上手の高校生スギノコ君は、30人分の生姜焼きに腕を奮い、仲間を巻き込みながら手際よく「何となくおいしい」と思う味付けで仕上げる。もう一品は中学生のエータ君が作るカルボナーラで、前回みんなに絶賛されたことから今回も期待が大きい。「父親に教わりながら何回も試作した。問題点を1つずつ改善すると自分の好きな味付けがわかってくる」と話す。

フリーベースで過ごす時間を、若者たちはどう感じているのだろう。高校1年生の男子は「フリーベースでは何か問題が起きたとき、みんなで話し合い解決策を一緒に考える場になっている」と語る。中学2年生の女子は「同級生とは違う、年上の人と話ができるのが面白い」という。高校1年生の男子は「今まで人見知りだったけど、ここに来て自分が変わった」





たとえ「毎週金曜を楽しみにする。共通するのは「居心地の良さ」にあるようだ。

フリーベースをはじめた契機について、運営責任者でAIKURU理事の村野裕子さんは「子育て支援の枠を過ぎた中学生以上の相談を受けることが増えたが、入間市内に居場所がない状況だった」と振り返る。2020年に試行したところ想定以上の中高生が集まり、これを契機に毎月1回開催し、2022年からは毎週1回開催するようになった。

「オスキンドウゾ」のキャッチコピーは、中高生が自分たちで考えたもの。フリーベースの約束事は「原状復帰して帰ること」。もし何か困りごとがあってもこれ以外にルールが必要な時は、子どもたちが話し合いルールを決めている。「やりたいことを自分の手で実現してほしい。問題は子ども自身で解決してほしい。全ての子どもにはその力がある」と村野さんは話す。

この日は午前中にもう1か所、市内の仏子地区にある常設広場「子育て支援センターあん」も訪れた。木の香りを感じる広場にはトンネルや滑り台があるなど秘密基地の様相で、宮岡さんのアイデアが詰まった設計となっている。ランチタイムには持参したお弁当を親子で食べる。

親子に話を伺うと「スタッフも一緒に遊び、子育ての相談にのってくれるのが心強い」「食の相談にアドバイスしてくれるので助かっている」「広場に週3回来ている。自分がどんな状態でも受け入れてくれる場所だ。自分にとって心のよりどころになっている」など大きな存在になっているそうだ。

AIKURUは平成16年の設立以来、子育て中の親子や地域が抱える課題の解決に取り組み、市内3か所の常設広場となる子育て支援センターと6か所の出張広場を運営するほ





か、産後ケアや一時預かり、相談事業、子育て人材の育成、子ども食堂、地域の自然体験など、すべての子ども達を応援する幅広い活動を展開している。

幅広い活動を実現してきた要因として代表理事の宮岡さんは「行政の動きを常に把握するように努めている」ことを挙げる。行政の各種委員に積極的に参加し、自分たちの思いだけでなく、国の計画、県や市の動きとリンクしながら事業を企画するようにしている。

広場をはじめ各事業では多くのスタッフが活躍する。スタッフは保育士や幼稚園教諭として働いた経験がある人が多く、自分の子育てが一段落した時点で改めて仕事を探し、AIKURUを選ぶ人も多い。その理由として「自分も子育てで困った経験があるので、親子の『伴走者』として寄り添っていきたい」そんな思いがあるスタッフが多数いる。

スタッフは現場で目前の人への気付きを大事にしている。保育園や幼稚園と異なり親子一緒の状態でするので、親子の関係性に早く気付き、困りごとを解決しやすい。スタッフはこの点でもやりがいを感じている。

AIKURUでは、未来を担う若者たちに贈る次世代育成プログラム「おやこde先生の未来教室」も開いている。乳幼児と保護者で学校を訪問し、赤ちゃんとの触れ合いの中で命の大切さを感じてもらい、子育て世代に優しい若者が増えれば、と願っての取り組みだ。「子育てと社会がつながっていることを保護者に実感してもらえれば」と同法人は期待する。

【連絡先】 特定非営利活動法人AIKURU

TEL 04-2966-2848

E-mail: aikuru@m.ictv.ne.jp

ホームページ: <https://aikuru.chu.jp/toyooka/>

